

橋本病の患者さんへ

1. 橋本病とは

橋本病は甲状腺に慢性の炎症が起きる病気で、慢性甲状腺炎ともいわれます。これは、自己免疫の異常により、甲状腺に対する抗体ができて、この抗体が甲状腺を破壊するために起こる病気です。

橋本病の患者は、特に女性に多く、男性の患者の 15 倍ないし 30 倍にものぼるといわれ、40 歳代以後の女性では 13 人に 1 人がこの病気であるとの調査結果があります。

2. 橋本病の症状

橋本病の症状は甲状腺腫と甲状腺機能低下による症状が主なものです。

①甲状腺腫

橋本病の甲状腺腫は、ほとんどわからないくらい小さいものから、非常に大きいものまでさまざまです。そしてこの甲状腺腫は、前頸部の不快感あるいは圧迫感などを伴い、この症状を訴える人が多いのです。

②甲状腺機能低下症

すべての橋本病の人が甲状腺機能低下症になるわけではなく、甲状腺機能低下症になるのは一部の人です。その症状は、寒がり、皮膚がかさかさする、疲れやすくなる、むくみ、便秘、無気力、体重の増加などです。

3. 橋本病の治療

橋本病の人でも、甲状腺機能が正常である場合には、治療の必要はありません。ただし、甲状腺機能が正常でも甲状腺腫が大きい場合には、甲状腺腫の治療のために、甲状腺ホルモン剤で治療をして甲状腺腫を小さくすることがあります。また、診断時に甲状腺機能が正常でも、状況の変化（特に妊娠・出産など）により、甲状腺機能が変化することがありますので、定期的な検査が必要です。

甲状腺機能の低下がある場合には、甲状腺ホルモンの分泌が少なすぎるので、これを補うために甲状腺ホルモン剤を服用して治療します。そして薬の服用は長期継続する必要があります。